



カリーニングラードを知る会

ソ連とプロイセンの文化が交わるロシアの飛び地

バルト海に面したロシア西端の都市カリーニングラード。1255年にドイツ騎士団によって建設され、第二次世界大戦を経て1946年にソ連領になるまでケーニヒスベルクと呼ばれたドイツの都市でした。ソ連時代以降は重要な不凍港としてバルト艦隊の拠点になり、造船業や琥珀の産出などで知られます。近郊の海岸はリゾート地としても人気。2000年代後半からは経済的にも成長を遂げています。今回はプレスカヤ・エカテリーナさんを講師に迎え、出身者の視点から語っていただきます。



講師：プレスカヤ・エカテリーナ

Natalya Skamernaya

ロシア連邦・カリーニングラード市出身。2013年イマヌエル・カント記念バルト連邦大学外国語学部修士課程卒業。2013~2014年ヨーデル・ウシャコフ海軍大学でロシア語教師を務める。2015年来日、ロシア語個人レッスンを始める。2018年モスクワ大学でロシア語教師資格を取得。2021年より横浜ロシア語センター講師。

2022年8月28日(日) 14:00~

横浜平和と労働会館4階会議室

(横浜市中区桜木町3-9 JR桜木町駅より徒歩5分)

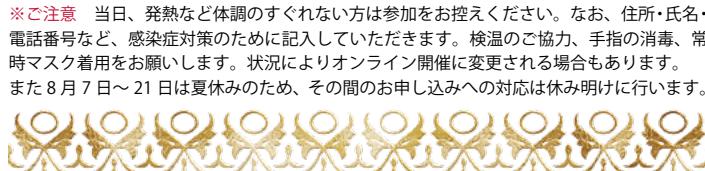
参加費：一般700円★、会員500円 定員：20名（先着順、要予約）

★当協会教室受講生以外の一般の方はお申し込みの際に会員の紹介が必要です。

主催・問合せ・申込み：NPO法人神奈川県日本ユーラシア協会

Tel/Fax: 045-201-3714

E-Mail: event@kanagawa-eurasia.org



※ご注意 当日、発熱など体調のすぐれない方は参加をお控えください。なお、住所・氏名・電話番号など、感染症対策のために記入していただきます。検温のご協力、手指の消毒、常時マスク着用をお願いします。状況によりオンライン開催に変更される場合もあります。
また8月7日～21日は夏休みのため、その間のお申し込みへの対応は休み明けに行います。



①生涯をケーニヒスベルクで過ごした哲学者イマヌエル・カント
②ドイツ風建築が立ち並ぶ新しい観光地「漁村」
③名物菓子ケーニヒスベルガー・マルツィパン
④上空から望むカリーニングラードの街。奥はソビエトのアパート群。手前はケーニヒスベルク大聖堂。カントの墓が納められている
⑤国際ブルーフラッグ賞を受賞した琥珀の産地ヤンタルヌイ村の海岸
⑥「踊る森」と呼ばれるクルシュー砂州の松林
⑦世界最大とされる琥珀のモザイク「レーン」を所蔵する琥珀博物館
⑧リトアニアとポーランドに挟まれた飛び地カリーニングラード州
⑨バルト海とクルシュー潟を隔てる全長98kmのクルシュー砂州
⑩名物料理ケーニヒスベルガー・クロブセ
⑪名産の琥珀